

社会的事象の「特色」や「相互の関連」を考える ～付箋紙を活用したノート作りを通して～

小学校学習指導要領の第3学年及び第4学年の能力に関する目標に、**地域社会の社会的事象の「特色」や「相互の関連」などについて考える力を育てる**ようにすることが掲げられています。今回は、社会的事象の「特色」や「相互の関連」について考える実践例を紹介します。

〈小学3年「農家の仕事」～カスミソウの産地 昭和村～〉

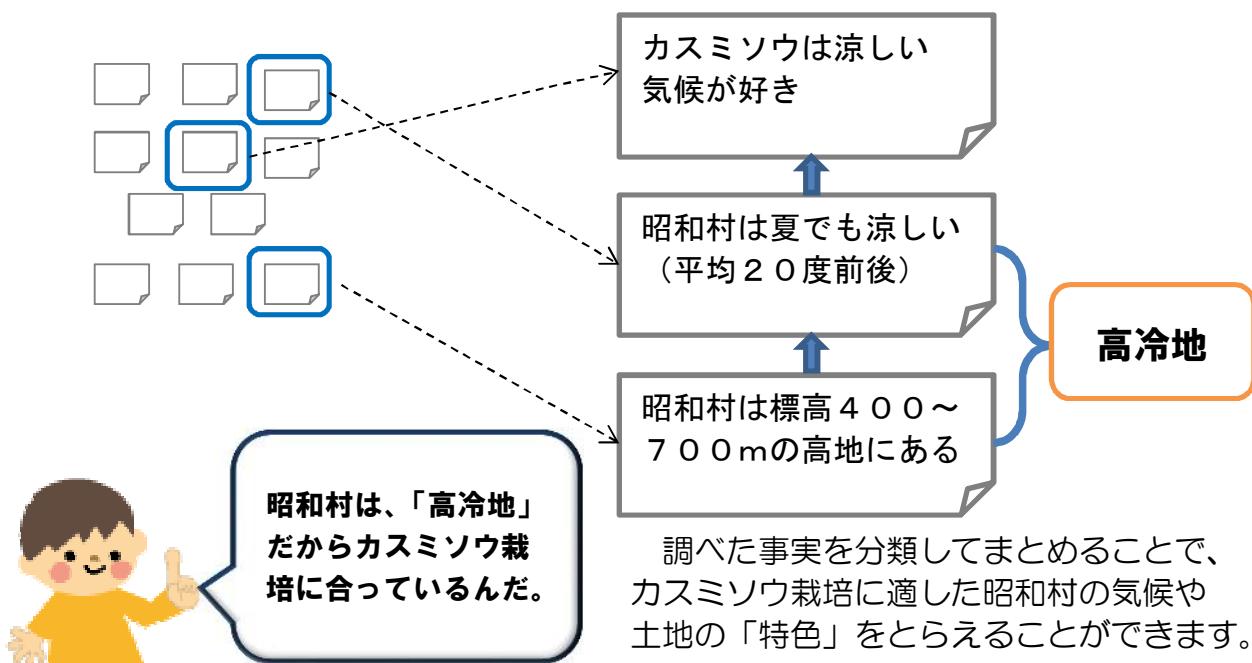
福島県大沼郡昭和村は、からむし織の産地として有名ですが、カスミソウの栽培もさかんで、関東、関西方面を中心に、北は仙台、南は沖縄まで全国約40の市場に出荷されています。特に、夏秋期の栽培面積では全国市町村別第1位の規模を誇ります。

そこで、昭和村でカスミソウ栽培がさかんなわけを調べ、付箋紙を活用したノート作りを通して、調べて得た事実を分類したり関連付けたりしながら、事象の「特色」や「関連」について考える実践例を三つのポイントをもとに具体的に紹介します。

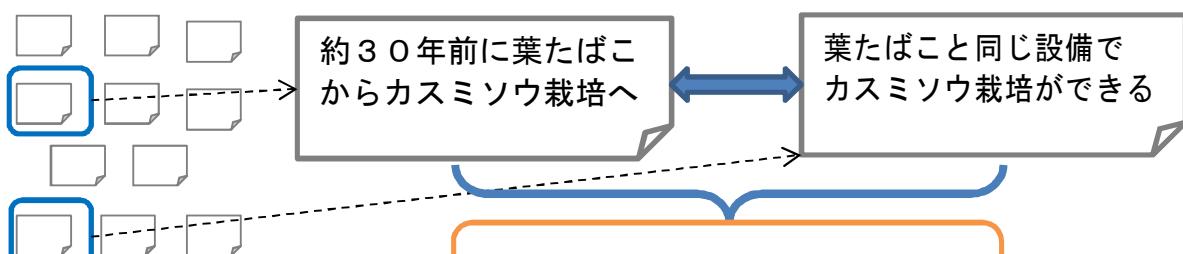


〈Point 1〉調べて得た事実を“分類してまとめ”、事象の「特色」を考える。

調べた事実を一つ一つ「付箋紙」に書かせます。そして、ノート上で付箋紙を並べて比較・分類させます。こうすることで、どの事実を比較し、どう分類しようとしているのかが子ども自身の目に見えるようになります。このような調べた事実の「視覚化」及び「可動化」により、事実に基づいた子ども一人一人の思考活動が活性化します。



〈Point 2〉 “時間軸”の視点から事象相互の「関連」を考える。

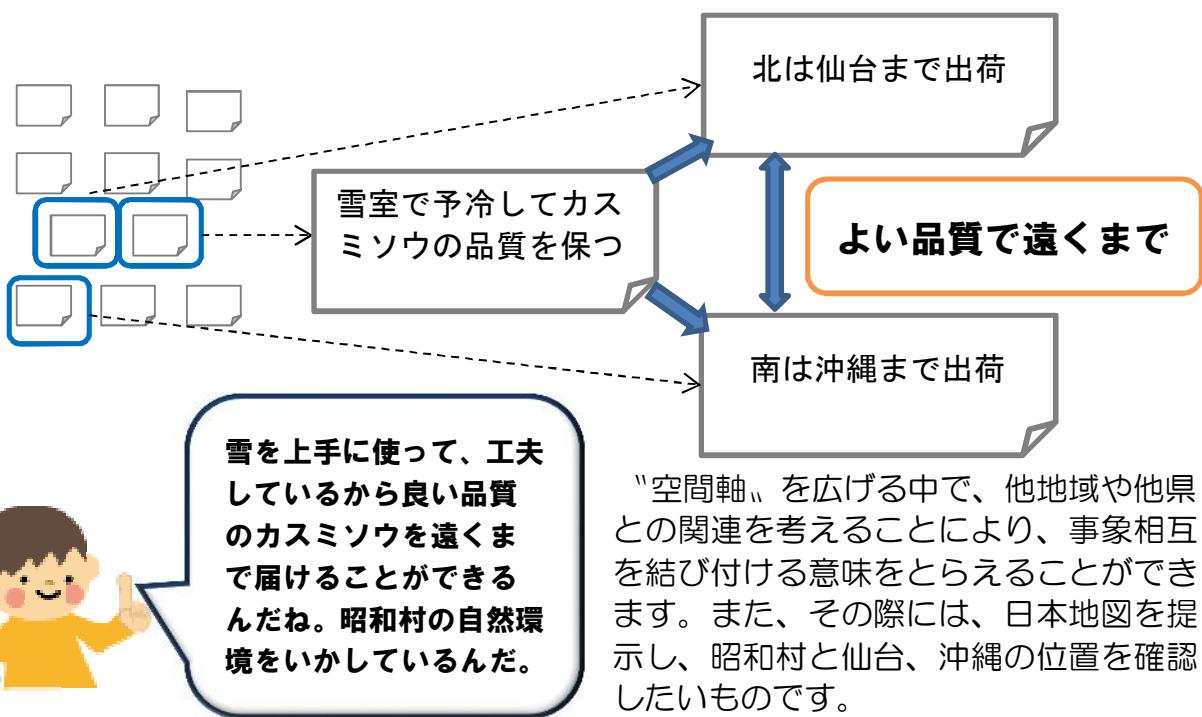


“時間軸”の視点から過去の事象や未来への影響等と関連付けて考えることにより、事象相互のもつ意味についてとらえることができます。

昔さかんだった葉たばこの設備を利用できたからカスミソウ栽培を始めやすかつたのね。



〈Point 3〉 “空間軸”の視点から事象相互の「関連」を考える。



“空間軸”を広げる中で、他地域や他県との関連を考えることにより、事象相互を結び付ける意味をとらえることができます。また、その際には、日本地図を提示し、昭和村と仙台、沖縄の位置を確認したいものです。

調べて得た事実をノートに直接書いた場合、書いた事柄を近づけて考えたり、分類してまとめたりすることが難しくなります。そこで、調べて得た事実を付箋紙に書くことにより、ノート上で並べて比較したり、分類したりすることが容易になり、子どもの思考活動の助けとなります。

また、調べた事柄を短い言葉で端的に付箋紙に記すように指導することにより、調べた事柄に対する自分なりの理解が深まります。

